

農林水産大臣 齋藤健様  
国土交通大臣 石井啓一様  
環境大臣 中川雅治様

## ニホンウナギの資源保全と持続可能な利用のための意見書

パルシステム生活協同組合連合会  
代表理事 理事長 石田敦史

パルシステムグループは、「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」を基本理念とし、会員組合員数 152.2 万人を組織する生活協同組合のグループです。商品の社会的あるいは環境面における価値を理解した上で“主体的な”商品選びを呼び掛ける『『ほんもの実感！』くらしづくりアクション』（第 1 回「ジャパン SDGs アワード」SDGs 推進副本部長賞受賞）を実施し、産地や組合員、地域とともに持続可能な社会づくりの事業・活動に取り組んでいます。

当会ではニホンウナギの資源状況に対する組合員からの懸念を受けて産地や組合員との対話を重ね、利用を通じて産地や蒲焼の技術、食文化を継承しながら資源回復の方策を模索する「うなぎ資源回復」の取り組みを実施してきました。池入数量上限を遵守し資源回復活動にも積極的な産地、商品利用による支援金やカンパを通じて活動を支える組合員とともに、資源と食文化がともに守られるよう取り組んでいます。しかし 2018 年 6 月現在でも資源状況の好転は確認されていません。東アジア全体で単一の個体群を形成するニホンウナギ資源の保全と持続可能な利用には、特定の地域や主体のみの取り組みのみならず、国の主導するさらなる積極的な取り組みが必要と考え、以下要望します。

### 1. ニホンウナギの生息域を再生するための河川や沿岸域の自然再生を推進してください

ニホンウナギは成長の過程で、沿岸域から河川、水田まで多様な環境を利用しています。しかし、堰などによる水域の連結性の喪失や、水際のコンクリート化、干潟の減少などの局所環境の変化により、ニホンウナギの生息環境は悪化しています。次世代の稚魚を生み出す親ウナギを増やすため、ニホンウナギに配慮した沿岸域管理、河川管理、農村整備が統合的に計画・実施され、河川や沿岸域の自然が再生されていくことを求めます。

### 2. 科学的な資源量調査を進め、科学的知見に基づく資源管理を強化してください

ニホンウナギ資源を持続的に利用するためには、科学的データに基づき適正な資源管理を行うことが必要です。国際的な共同声明のもとに 2015 年から開始された「池入数量上限」の取り組みは、サプライチェーンの中で最も把握が容易な「池入」に着目した画期的な枠組みであり、このような枠組みの構築を高く評価します。

一方で、ニホンウナギの持続的な資源管理を実現するためには、まだ課題があると考えます。ニホンウナギの生態や資源量推移には未解明な点が多く、現在設定されている池入数量上限も資源量の科学的評価に基づいて設定されたものではありません。ニホンウナギの資源管理をより実効的なものとするため、資源量に関する科学的調査を強化し、得られた科学的知見に基づく資源管理の取り組みを推進することを求めます。

### 3. 合法性・持続可能性が担保されたウナギを消費者が選択できる制度を設計してください

適切な漁獲規制とその遵守は水産資源の持続可能な利用の基礎となるものです。それに対し、違法（Illegal）、無報告（Unreported）、無規制（Unregulated）に行なわれる漁業「IUU 漁業」は、水産資源の保全と持続可能な利用を妨げるものとして国際的に問題となっています。当会でも 2009 年に制定した「水産方針」において IUU 漁業等を排除していくことを掲げていますが、現状ではシラスウナギの採捕・流通経路の合法性を担保する制度が整備されておらず、養殖業者や消費者が合法的なウナギを選択することすら困難です。ウナギ資源の合法性を証明する制度が早期に整備され、持続可能性が担保されたウナギを消費者が選択できるようになることを求めます。

以上